

上海・蘇州・揚州における水辺の役割および長江・大運河の水運調査

- 1、担当教員：松浦茂樹
- 2、フィールド：上海、蘇州、揚州、長江、大運河
- 3、期間：2009年8月26日（水）～8月30日（日）
- 4、参加学生数：11人
- 5、費用：約10万（往復航空運賃、宿泊費、食事代、各施設見学代等）

活動報告

・目的

長江沿いに位置する上海また大運河沿いに発展した蘇州・揚州などの都市は、水と強い関わりをもって発達し水郷都市を形成させてきた。例えば水辺を巧みに取り込んだ多くの庭園が作られ、水辺は生活に溶け込んでいた。これらの状況を現地で調査し、卒論作成や、視野を広げることを目的とする。また、世界で最も変貌している地域の一つである上海を見学し今後の発展の考察や、日本と中国の歴史的交流を学ぶ

・スケジュール

8 / 26 成田空港集合 成田発 上海着 上海泊

8 / 27 午前中に上海をバス（今後国内の移動は全てバス）で立ち、途中にある大規模工業地帯などを車内から眺め、昼頃に蘇州に到着。造園専門家・陸偉雄氏の案内で世界遺産である拙政園と、漢詩「柳橋夜泊」で有名な寒山寺を訪れる。また、寒山寺近くを流れる京杭大運河を見学した。その後、蘇州料理の銀魚や桂魚を美味しく食べた。蘇州泊。

8 / 28 午前9時に蘇州を立ち、途中長江を車内から眺める。長江に多くの船が行きかっているのが見え、また長江沿いには港・工場が展開していた。昼頃に揚州に到着。鑑真縁の寺である大明寺を見学する。有名な鑑真と日中交流の所縁の地を訪れ、彼の日本への度重なる苦難の旅路を思うと感慨深い。その後、場所は違うが前日と同じ京杭大運河を観た。大型の貨物船が連々と行き交っている様子に驚愕する。揚州泊。

8 / 29 午前8時に出発。先ず揚州市内運河を訪れる。その後、長江を再び渡り上海に移動。豫園周辺を散策し、夜は黄浦をクルージングした。この地区は上海の中心地で、都市として最も発展しており、浦東地区には高層ビルが立ち並んでいる。しかし、対岸には西洋列強によって築かれた歴史的な建築が多い。両者がライトアップされた夜景は恍惚とってしまう。上海泊。

8 / 30 上海発 成田 解散。



右) 蘇州京杭大運河にて



左) 蘇州拙政園にて

・考察 (国際地域学科4年 石井翔太郎)

漢字の中で水部を持つ漢字は草冠に次いで2番目に多い。また、中国は陰陽五道に水を入れている。それくらい昔から中国では水を重要視する考えがあった。では、これからの中国の水はどうなっていくのだろうか。この研修を通じて感じたことを記す。

長江の南、江南地区には水郷都市が点在する。蘇州市は寒山寺の横を流れる京杭大運河で発展した。街全体に水路が引かれ、それに沿って庇を伸ばした家が立ち並び、暮らしの中に溶け込んでいる。この市にある拙政園は建物を船に見立てた建築があるなど、水辺を巧みに利用していた。蘇州周辺には湖沼も多く、カニの養殖池らしいものも見られる。また、蘇州料理にはそこでしか獲れない魚が使われる。人々の暮らしと、水が一体となっていて心地良い。しかしながら、インフラ整備が完全に整っていないのも事実である。

さて、私は日本のメディアを通じて中国河川の深刻さを耳にする。私の訪れた長江流域というのは水量の豊富な地域だ。比率にして黄河2に対して長江8である。現在黄河の水量は中流の水利用の増大で激減している。その問題を解決するために長江の水を黄河に流す南水北調計画が進められている。北京オリンピック時に起きた水不足を近隣の農業用水で補い、農業従事者と揉めたのは記憶に新しい。この計画は中国の南北格差を生まない為にも、早期完成が待たれる今回、訪れた京杭大運河(北京と杭州の頭文字)の効果として、南北格差を無くすためという目的もあった。この運河は隋の時代に煬帝が築いたもので、現在も水運として活躍している。今、この運河を世界遺産に登録する動きがあるようだ。

水質を見てみると、長江周辺には大規模な工業地帯や住宅地が立ち並び、発展段階であるから排水処理も殆ど行われることなく河川に流される。前述したように蘇州市はインフラ整備が進んでおらず、市内の水路は決して綺麗ではない。このことは、京杭大運河にも言える。水質問題に対しては去年、水質汚濁に関する日中共同声明が出されるなど、日本の技術支援が望まれている。中国の水問題は中国国内だけでなく、越前クラゲなど日本にとっても大きな影響があり、世界に対しても影響を及ぼす問題だ。そのため日本は高度な水処理技術を提供する良い機会である。

中国は今後も経済成長を続けていくだろう。それに伴って水利用量も増していく。そも

そも中国の河川流量は人口一人にすると 2260 立方メートルで、日本の 1 / 5 であって水資源に乏しい国である。670 近い都市のうち 400 都市が水不足に悩み、そのうち 100 ほどの都市が水道の断水や灌漑用水の汚染、涸井戸の頻発に直面していると言われている。中国がこの先どう変わっていくのかを見ていく上で、今回の研修で水郷都市や大運河などを実際に訪れて勉強になった。もしかすると、水を巡る戦争が勃発するかもしれないと思えるくらいスケールが大きかった。

唐の時代に鑑真は戒律を伝える為に、5 回も渡日に失敗し失明しても責務を果たした。水問題という大きな問題を前に、1200 年前に日中の架け橋となった彼をもう一度思い出してみるのも良いだろう。